

社会・文化・教育



キーワード：父親支援、子育て支援、母子保健

父親に対する子育て支援プログラムの開発

看護学部 看護学科 講師

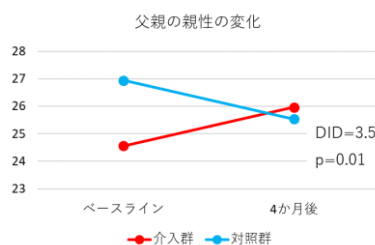
足立 安正 ADACHI Yasumasa

研究の内容

背景：男性の育児休業の取得率増加が示すように、仕事と育児・家事の両立に取り組む父親は増えています。しかし、父親は母親に比べて子どもに関わる時間が少なく、親性の発達十分に促されない状況にあると考えられます。そこで、乳児期前期の子どもをもつ両親にアンケート調査を実施しました。その結果、乳児の父親の親性に関連する要因として、「父親が育児・家事行動をとること」と「母親が父親からサポートを受けていると感じること」を明らかにしました。父親の親性の発達を促すために、2つの要因に働きかけるプログラムを開発・実施しました。

目的：父親の親性の発達を促すためのオンラインプログラムを開発、その効果を検証し、研究成果の社会実装をめざしています。

成果：赤ちゃんとの遊び方やコミュニケーション方法、おむつ交換やミルクの準備・あげ方などを学ぶ動画の視聴、父親同士の交流などで構成されたプログラムを実施しました。その結果、研修参加群は非参加群に比べて、父親の親性が高まりました。一方で、効果継続の検証やより多くの対象者への介入実施などの課題も残りました。



父親の親性の変化の差の検定



プログラムの視聴動画

産学連携・社会連携へのアピールポイント

乳児をもつ父親の親性に関連する要因を明らかにし、その要因に働きかけるオンラインプログラムを開発・実施しました。このようなプログラムの実施だけでなく、自治体ですでに実施されている母子保健事業を、父親支援の視点を含めて展開させていく方法の検討にも取り組んでいます。

研究者総覧（足立 安正）

URL : https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/200000263_ja.html

